

3年生の保育園訪問で思い出した話

3年生が家庭科の授業の一つとして、昨日は1組が小中野保育園を、きょうは2組がちぐさ保育園を訪問して、幼児と触れ合いました。私も保育園に行って、ほんの少しの時間ですが、その様子を見させてもらいました。1組の.....幼児に対する接し方を見て、小中野保育園の園長先生は「今すぐうちに来てもらってもいいくらいです。すぐに採用します。」と私に言ってくれました。また、ちぐさ保育園では、年長児が「おにいさんとおねえさん、サイコー」と走り回ってました。そんな様子を見て、私も幼児と触れ合った“ある思い出”が蘇りました。私が田子町の教育委員会に勤務していた22年前の話です。

田子町に唯一ある幼稚園の「節分の豆まき」で、鬼の役を頼まれました。事前の打ち合わせでは、前の年に鬼の役をやった若い女性の先生が優しすぎて、誰も豆をぶつけなかったのも、私にはとにかく「コワイ鬼」を演じてくれということでした。当日は鬼の面をかぶり、あとは町の民俗資料館から借りてきた、秋田県のナマハゲのようなものを身につけて出番を待ちました。園児たちは、楽しそうに歌を歌ったり、何かを作っていました。合図とともに、扉をガァーッと開け、「ウォーッ」という叫び声をあげて40人くらいの園児がいる部屋に入っていました。私を見た園児たちは、一瞬目を点にして「ポカーン」と驚いた後、火がついたように全員が泣き出しました。私は、予想外の展開にあせりましたが、何とかしないといけないと思い、そばにいた4歳くらいの園児一人を抱えて、「この子はもらっていくぞーっ」とさらに大きな声で言いました。まさしくナマハゲそのものです。そのとたん、全員がさらにボリュームをあげて「うええええーん」と泣き声をあげたのです。40人くらいの園児が思いっきり泣くのですから、ある意味壮観（ソウカン：思わず息をのむようなながめのこと）でした。しかし、幼稚園の先生が「〇〇ちゃんを助けよう」とか「鬼に豆をぶつけよう」といくら声をかけても、全員泣くばかりで、誰も豆をぶつけようとしません。都合が悪くなった私は、抱えていた園児を離して、そこを静かに立ち去りました。帰りぎわ、園長先生には「迫力がありすぎましたからね」となぐさめられたのですが、ほかの幼稚園の先生みんなが白い目で見ているような気がしました。昼過ぎに教育委員会に戻ったのですが、園児の保護者からの苦情の電話が数本かかってきたことはいうまでもありません。つくづく、やり過ぎたことを反省しました。

「コナチュウ未来への架け橋講座」始まります

小中野中学校では、キャリア教育の一環として、「コナチュウ未来への架け橋講座」を開講しております。これは、生徒たちが将来に向けて具体的に夢を描き、その実現に少しでも近づくことができるように、地域に住む方や卒業生ら身近な人たちからお話を聞くというものです。

今年度の予定は、次のようになっております。いずれも時間は、午後4時15分頃から午後5時く

11月24日（木）	八戸市役所	奥山直人 様
11月25日（金）	ヴァンラーレ八戸	市川大祐 様
11月29日（火）	葉子処丸美屋	若山忠義 様
12月8日（木）	青森県金融広報委員会	菅原伊佐雄 様
12月9日（金）	元八戸グランドホテル	追切昭則 様
1月23日（月）	DHC	池田彩花 様

らいまでを予定しております。地域や保護者の皆様も、生徒と一緒に聴きただけですので、興味のある方はその日に直接ご来校いただければと思います。職員室にお声をかけていただければ、会場までご案内いたします。

【今日のひとり言】

●きょうの私の似顔絵は、バレー部.....が描いてくれました。美術部や有志の生徒が描いてくれた似顔絵がなくなったこともあり、学校だよりも出せていませんでしたので、1か月ぶりの発行となってしまいました。大変申し訳ありません。どんなことでも続けてやっていけば、それほど負担を感じずにやれるのですが、いったん休んでしまうと、なかなか億劫（オックウ：気が進まず面倒なこと）に感じてしまい、やれなくなるものです。部活動が終わって、帰るために玄関にいた女子バレー部に頼んでみたところ、全員が快く描いてくれました。本当にありがたかったです。描いた私は、顔ではなくて「お腹」でした。「少し痩せたら」という無言の叱咤激励かもしれませんね。明日と明後日はバレーボール霜月杯です。男女とも、バレー部には頑張ってもらいたいです。